

北海道銀杏会 第17回講演会

日時 2013年11月18日(月) 18時30分～20時20分

場所 さっぽろすみれホテル 3階「フルール」

講師 日本経済新聞社 札幌支社 支社長 篠原 昇司 様

本日は日本経済新聞社札幌支社長の篠原昇司様を講師にお迎えし、「アベノミクスと北海道経済」と題して、アベノミクスの現状分析・総評と今後のポイント、ならびに北海道経済向上に向けた提言等について、適確なデータ分析と冷静な判断に基づくご講演をいただきました。

篠原支社長は在学中に学ばれた心理学について、セブンイレブンの小売業における変化への対応や、中国の安全保障における国民の嫉妬心のコントロールなど、実社会でも大変有効であると感じることが多いとのこと。そして、アベノミクスも期待への働きかけという心理学的アプローチに他ならないと説明されました。

昼間は時間的に参加しづらいとの声もあり、今回は初の試みとして、夜間(18時30分～)に講演会が開催されました。これまでを上回る多くの皆様に参加いただき、予定時間を過ぎても質問が活発になされる充実した講演会でした。

(概略は以下のとおりですが、内容も幅広く全てを網羅できていないことはご容赦ください)

ご講演いただきました篠原支社長とご参加いただきました会員の皆様に、厚くお礼申し上げます。

1. アベノミクス

(1) 総評

アベノミクスは出足好調で長期政権への兆しもありますが、これからが正念場であり、実行力がカギとなります。世界中の投資家が次の点に注目しています。

- ① お金は動き出し、デフレ脱却につながるのか。
- ② 岩盤規制への切り込みはできるのか。
- ③ 財政再建(痛みを伴う分野の歳出カット)は進められるのか。

(2) 現状分析

「3本の矢」の現状は次のとおりです。

A. 財政出動政策～ ○ のち ?

現在は順調です。今後、財政再建とのバランスが必要となります。

B. 金融緩和政策～ △

消費者物価指数は1年前の△0.1%から0.7%に上昇しています。ただし、食料とエネルギーを除けば0.0%です。株価は1年前の8,664円から15,164円に上昇していますが、ヘッジファンドを中心とする外国人主導によるものです。銀行借入もゼネコンなど一部では増えてはいるものの、総じて資金需要は弱い状況です。

C. 成長戦略～ ×

医薬品ネット販売におけるゾンビ規制や酪農業参入への岩盤規制などの例にあるとおり、いまのところ目立った進展はありません。

2. 北海道経済

(1) 実態

アベノミクスへの評価は総じて冷淡です(評価する割合は、本州の6割に対し、道内は4割)。

しかしながら、実際には公共工事と株高の恩恵を受けており、街角景気指数も 55.7 と好況の目安とされる 50 を超えています。

一方、道内における個人金融資産は預貯金が中心で、納税額 30 百万円以上のお金持ちも意外と多いのですが、株式等への投資は消極的です。また、起業が少なく、平成 12 年に開設されたアンビシャスへの上場企業も累計 14 社にとどまります。つまりお金の動きが悪い状態です。

(2) 提言

お金を循環させ、北海道の景気を回復させるために必要なことは次のとおりです。

- ① 心理的に前向きにさせる政治・経済のリーダーシップ
- ② 起業家を育成する仕組み
- ③ 投資家を育成する仕組み
- ④ 銀行の資金需要創造機能

(文責 渡辺知博)